

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大分大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオイタダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	宮下清(教授)、高見博之(教授)、仲本大輔(准教授)、秋山千恵子(准教授)、梶原博(嘱託職員)、槇島あやこ(非常勤職員)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	29
	受入企業等数	18
	受入企業等名	(株)オーシー、神田通信機(株)、三菱化学物流(株)、宇佐市役所、臼杵市役所、愛媛県庁、大分県庁、大分市役所、(株)ナフコ、(株)レインプラントホテル大分、佐伯市役所、佐賀県庁、高千穂町役場、延岡市役所、別府市役所、松山市役所、損害保険ジャパン日本興亜(株)、(株)地域科学研究所
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等),3.その他
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	礼儀や職場でのマナーの体験と修得
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップによる企業等の業務体験、課題解決や研修を通して、企業や業界の業務内容や自分の職務適性についての理解を深め、コミュニケーション力、対人対応力、職業意識、社会人基礎力を高めている。さらにインターンシップに参加することは、大学での学習意欲の向上にもつながっている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位、2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5日以上10日未満の実習1単位、10日以上の実習2単位企業等における就業体験を通して、高い職業意識と職業選択に必要な能力を養うとともに、学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成し、より有効な大学での学習に繋げるために、インターンシップ実習日報、就業状況に関する報告書、企業等の担当者によるインターンシップ評価表、事前・事後の研修や報告会の状況等を総合的に勘案して評価して単位を認定している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、担当教員が企業へ赴き、人事部などのインターンシップの責任者や担当者と共にインターンシップ参加学生の状況の観察や面談を必要に応じて行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前研修においては、インターンシップでの心構えや注意事項、企業等の事業内容等に関する学習を行っている。事前研修の参加は、必須事項として位置付けている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習においては、インターンシップの成果に関する事後報告会を実施して、実習報告書を用いて、就業体験の振り返りを行っている。また、成果目標(テーマ)等の達成について、確認を行っている。事後研修の参加は必須事項として位置付けている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	特定の企業において、インターンシップ中に、担当教員が企業へ赴き、人事部などのインターンシップの責任者や担当者と共にインターンシップ参加学生の状況の観察や面談を必要に応じて行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他

要素④	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	インターンシップ実施後、実習報告書を提出させている。内容は各自が設定したテーマについて得られた効果やテーマの他に得られたこと。また、アンケートや企業等からインターンシップ評価表を提出させている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施後の教育的効果の測定については、インターンシップ実施委員会において、インターンシップ実習日報、就業状況に関する報告書、企業等の担当者によるインターンシップ評価表、事前・事後の研修や報告会の状況等を総合的に勘案して評価を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップを実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生に対する教育的効果を高めるため、インターンシップ中の学生に対して、インターンシップ実習日報の作成や就業状況に関する報告書について、企業等の担当者の指導、助言及びインターンシップ評価表による評価を行い受入企業等からの書面での提出を受け連携を図っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	OURL http://www.ec.oita-u.ac.jp/syllabus/2017/7-kyotsu.pdf OUR L http://www.oita-u.ac.jp/07shushoku/internship2.html
問い合わせ先	大学等名	大分大学
	担当部署名	経済学部就職支援室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	097-554-7659
	メールアドレス	ejob@oita-u.ac.jp